

## メッセージアウトライン

### ヨハネ12：27~ 36「光がある間に」

「今わたしの心は騒いでいる」(27)イエスはご自分が十字架につけられて死ぬ時が来たことを知り、心を騒がせられた。しかしイエスが常に第一とされたことは、父なる神のみこころに従うことであつた。それゆえイエスは逃げるのではなく、この苦しみを乗り越え、「いや。このためにこそ、わたしはこの時に至ったのです」と言うことができた。私たちも人生のさまざまな苦しみから、できれば逃げ出してしまいたいと思うことがあるかもしれない。しかし、たとひ苦しみがあつてもイエスがなされたように、父なる神のみこころに従う時に、それは喜びに変わるのである。もしイエスが十字架を前にして逃げ出されたならば、私たちの救いはなかつた。イエスの苦しみは私たちの救いのためであつた。

「父よ。御名の栄光を現してください」(28) イエスは苦しみから逃げるのではなくこのように祈られた。「そのとき、天から声が聞こえた」イエスの地上の生涯の重要な節目にはこの父なる神の声がかけてられている。→マル1:11,9:7 そして今は福音が異邦人にまでおよぶ時代の始まりであつた。

「わたしは栄光をすでに現したし、またもう一度栄光を現そう」一度目はラザロの復活の時→ヨハ11:4,45 「もう一度」とはイエスの死と復活を通して、異邦人にまで救いがおよぶようになることによってである。

「天からの声」(29)は弟子たちにしか理解できなかつた。この声が聞こえたのは聞いていた弟子たち自身が、イエスとその語られることについて確信を持つためであつた。(30) 「今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです」(31) イエスの十字架の贖いによって、サタンの支配は破られ、その支配権を行使することはできなくなるのである。

イエスが「地上から上げられる」(32)とは二つの意味がある。①十字架に上げられる。②死より復活して天に上げられる。この十字架と復活と昇天によってイエスは贖いを完成され、イエスを信じるすべての人々をご自分のところに引き寄せる、つまり天国へ入れられるのである。

群衆はこのイエスの言葉が理解できなかつた。(34) イエスは質問に答えるよりも彼らに最後の決断を迫られる。(35) 彼らの今なすべきことは、イエスという光がこの地上にある間に、やみが迫る前に歩きなさい、すなわちなすべきことをしなさいということであつた。光なしに人は歩むことはできない。イエス・キリストという光なしには人は暗黒の迷路に入り込むのである。

「あなたがたに光がある間に、光のこどもとなるために、光を信じなさい」(36) 光すなわち神の御子であるイエスが地上におられる間にイエスを信じる時、その人は光の子ども、神の子となるのである。これが彼らに与えられた最後の機会であり、なすべきことであつた。この後、イエスは身を隠されて、次に人々の目の前にあらわれるのは、まさに十字架につけられる時なのである。しかし、残念ながら彼らはイエスを信じようとはしなかつた。光であるイエスは彼らの前からいなくなり、彼らはやみの中を長い間さまよわなければならなくなるのである。

今は天に上られたイエスによって、助け主なる聖霊の与えられている福音の時代である。今、誰でもこの救いに招かれている。手遅れになり、やみの時代になる前にイエス・キリストを信じ、光の子として歩もう。